

香川県内企業経営動向調査による景況感の現状および見通しについて
 (2023年9月実施)
 ~2期連続でプラス~

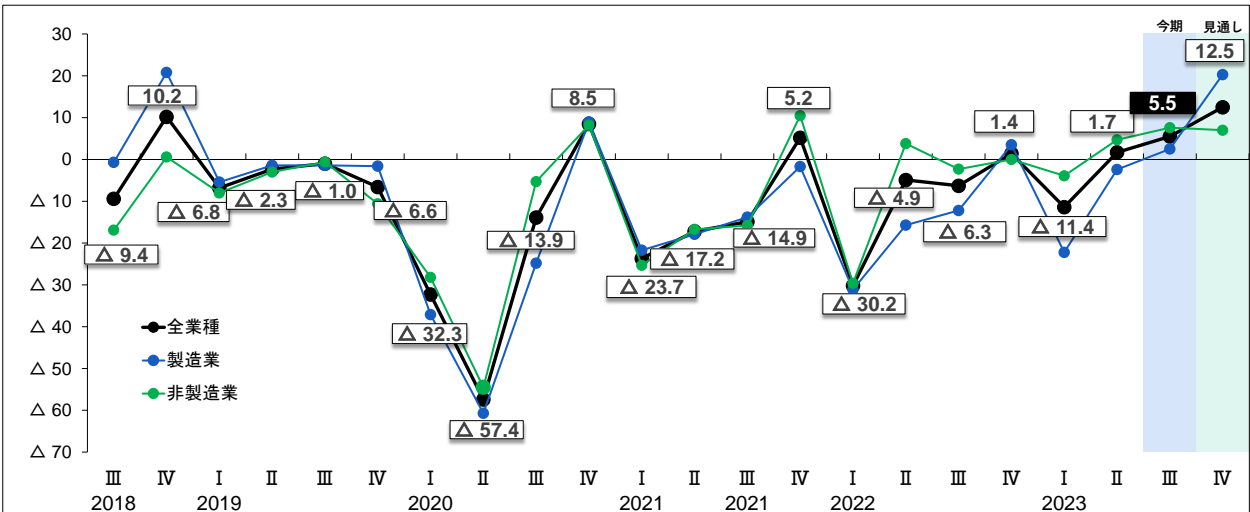
1. 全体の概況

今期(2023年第3四半期)の県内企業の業況判断BSI[※](全業種)は5.5と、前期の1.7から3.8ポイント上昇し、2期連続でプラスとなった。2期連続でプラスとなるのは、2013年第4四半期から2014年第一四半期の2期以来、約10年ぶりであった。

業種別では、製造業は2.5と、前期の△2.4から4.9ポイント上昇、非製造業は7.6と、前期の4.7から2.9ポイント上昇した。

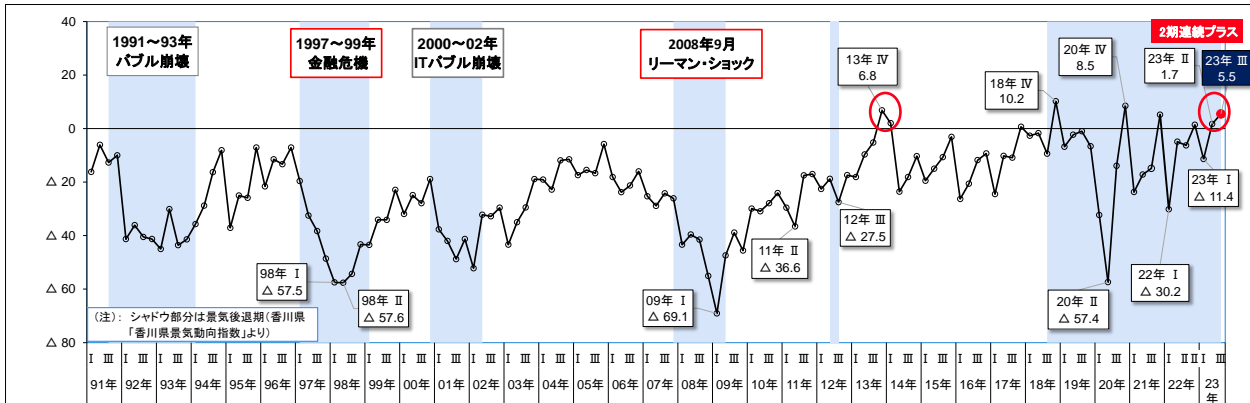
来期BSI(全業種)は12.5と、今期の5.5から7.0ポイント上昇する見通し。業種別では、製造業が20.3と今期の2.5から17.8ポイント上昇、非製造業は7.0と今期の7.6から0.6ポイント低下する見通し。

業況判断BSI(全業種・製造業・非製造業)



業種	実績						2023 I	① II	今期	見通し	差異	
	2021 IV	2022 I	II	III	IV	2023 II			② III	③ IV	前期比 (②-①)	今期比 (③-②)
全業種	5.2	△30.2	△4.9	△6.3	1.4	△11.4	1.7	5.5	12.5	3.8	7.0	
製造業	△1.7	△31.1	△15.7	△12.2	3.5	△22.2	△2.4	2.5	20.3	4.9	17.8	
非製造業	10.5	△29.6	3.8	△2.3	0.0	△3.9	4.7	7.6	7.0	2.9	△0.6	

業況判断BSI長期推移



2. 業況判断 BSI

(1) 今期（2023 年第 3 四半期）実績

原材料・エネルギー価格の高騰や円安進行による悪影響はあるものの、新型コロナウイルス感染症の 5 類移行以降、県内では人流・物流ともに着実に回復してきた結果、今期 BSI は 5.5 と前期の 1.7 から 3.8 ポイント上昇、2 期連続でプラスとなった。

業種別でみると、製造業は 2.5 と、前期の△2.4 から 4.9 ポイント上昇。その内訳をみると、加工組立型が 11.4 と前期比 21.2 ポイント上昇、生活関連型が 6.8 と前期比 8.9 ポイント上昇した。一方、基礎素材型は△10.3 と前期比 15.6 ポイント低下した。

非製造業は 7.6 と、前期の 4.7 から 2.9 ポイント上昇。その内訳をみると、建設業は 13.3 と前期比 23.0 ポイント上昇、サービス業等は 14.9 と前期比 7.9 ポイント上昇した。一方、卸売・小売業は 1.8 と前期比 2.0 ポイント低下、運輸業は△11.8 と前期比 35.3 ポイントの大幅低下となった。

(2) 来期（2023 年第 4 四半期）見通し

原材料価格高騰や円安の継続、また人手不足の問題などが懸念されつつも、景気の緩やかな回復に伴う設備投資の増加や国内外からの観光需要に対する期待等があり、来期 BSI は 12.5 と今期の 5.5 から 7.0 ポイント上昇する見通しとなった。

業種別でみると、製造業は 20.3 と今期の 2.5 から 17.8 ポイント上昇する見通し。その内訳をみると、基礎素材型は 15.4 と今期比 25.7 ポイントの上昇を見通し、加工組立型は 17.1 と今期比 5.7 ポイントの上昇を見通し、生活関連型は 27.3 と今期比 20.5 ポイントの上昇を見通している。

非製造業は 7.0 と今期の 7.6 から 0.6 ポイント低下する見通し。その内訳をみると、建設業は 13.3 と今期比横ばいを見通し、卸売・小売業は 8.8 と今期比 7.0 ポイントの上昇を見通し、運輸業は△5.9 と今期比 5.9 ポイントの上昇を見通している。一方、サービス業等は 6.0 と今期比 8.9 ポイントの低下を見通している。

業種別業況判断 BSI

業 種	実 績							今期	見通し	差 異	
	2021 Ⅳ	2022 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	2023 Ⅰ	(①) Ⅱ	(②) Ⅲ	(③) Ⅳ	前期比 (②-①)	今期比 (③-②)
全業種	5.2	△ 30.2	△ 4.9	△ 6.3	1.4	△ 11.4	1.7	5.5	12.5	3.8	7.0
製造業	△ 1.7	△ 31.1	△ 15.7	△ 12.2	3.5	△ 22.2	△ 2.4	2.5	20.3	4.9	17.8
基礎素材型	△ 17.6	△ 36.6	△ 5.0	△ 10.0	△ 5.4	△ 25.0	5.3	△ 10.3	15.4	△ 15.6	25.7
加工組立型	△ 13.5	△ 13.9	△ 46.2	△ 16.7	△ 14.7	0.0	△ 9.8	11.4	17.1	21.2	5.7
生活関連型	20.0	△ 40.0	0.0	△ 11.1	26.2	△ 37.5	△ 2.1	6.8	27.3	8.9	20.5
非製造業	10.5	△ 29.6	3.8	△ 2.3	0.0	△ 3.9	4.7	7.6	7.0	2.9	△ 0.6
建設業	0.0	△ 16.0	△ 20.8	△ 11.1	△ 25.9	3.7	△ 9.7	13.3	13.3	23.0	0.0
卸売・小売業	14.0	△ 28.6	△ 7.5	△ 12.1	3.4	△ 8.2	3.8	1.8	8.8	△ 2.0	7.0
運輸業	△ 4.5	△ 66.7	25.0	△ 13.3	6.3	10.5	23.5	△ 11.8	△ 5.9	△ 35.3	5.9
サービス業等	17.2	△ 23.9	16.4	11.1	5.7	△ 6.8	7.0	14.9	6.0	7.9	△ 8.9

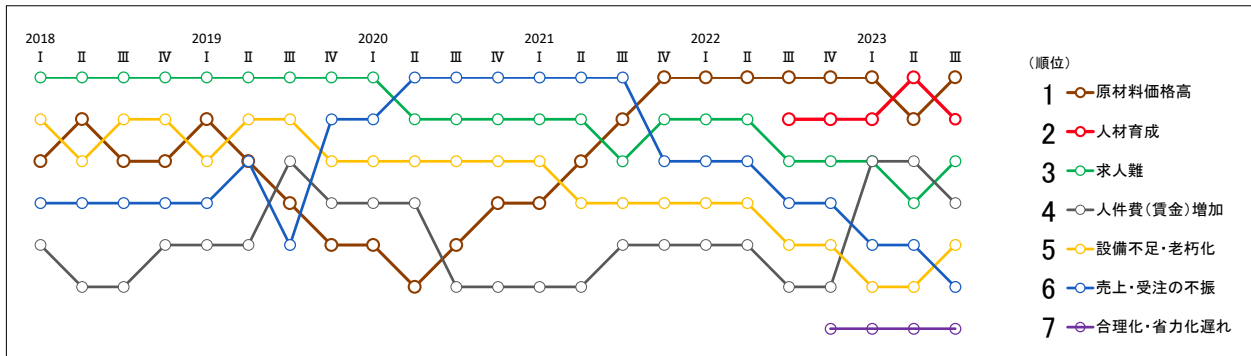
※BSI: Business Survey Index の略語。前期と比較した景況変化の方向性を示す、景況判断指数の 1 つ。企業に対しアンケート調査を実施し、業況等の調査事項に対し「①好転(増加)」「②不変」「③悪化(減少)」の 3 択から回答を求め、以下の算式で数値化したもの。

$$BSI = \frac{(\text{「①好転(増加)」の回答数} - \text{「③悪化(減少)」の回答数})}{(\text{「①好転(増加)」} + \text{「②不変」} + \text{「③悪化(減少)」の回答数合計})} \quad (\text{百分率})$$

3. 経営上の問題点

経営上の問題点を複数回答で尋ねたところ、前期2位だった「原材料（仕入）価格高」が再び1位となり、今期回答企業の58%となる167社が問題点として挙げた。特に製造業は7割超の企業に上り、経営を圧迫している状況が続いている。2位は「人材育成」、3位は「求人難」と人材・人手不足の問題も深刻で、製造業より非製造業で比率が高くなっている。

経営上の問題点 順位推移(上位7項目)



【企業経営動向調査概要】

- ① 調査時期：2023年9月5日～10月2日
(毎年3・6・9・12月実施)
- ② 調査事項：業況、受注高、生産高、売上高、在庫高、資金繰り、銀行借入、設備投資、雇用、採算の各項目別BSI、設備投資目的、採算の好転・悪化要因、経営上の問題点
- ③ 調査方法：郵送及びWebによるアンケート方式
- ④ 調査対象：県内に本社または主工場を持つ主要企業435社
- ⑤ 有効回答率：66.4%(有効回答数289社)

【業種別回答数及び構成比】

業種	回答社数	構成比
全業種	289	100.0%
製造業	118	40.8%
基礎素材型	39	13.5%
加工組立型	35	12.1%
生活関連型	44	15.2%
非製造業	171	59.2%
建設業	30	10.4%
卸売、小売業	57	19.7%
運輸業	17	5.9%
サービス業等	67	23.2%

【7業種区分】

製造業	
基礎素材型	木材・木製品製造業(家具を除く)、パルプ・紙・紙加工品製造業、化学工業、石油製品・石炭製品製造業、プラスチック製品製造業、ゴム製品製造業、窯業・土石製品製造業、鉄鋼業、非鉄金属製造業、金属製品製造業
加工組立型	はん用機械器具製造業、生産用機械器具製造業、業務用機械器具製造業、電子部品・デバイス・電子回路製造業、電気機械器具製造業、情報通信機械器具製造業、輸送用機械器具製造業
生活関連型	食料品製造業、飲料・たばこ・飼料製造業、繊維工業、家具・装備品製造業、印刷・同関連業、なめし革・同製品・毛皮製造業、その他製造業
非製造業	
建設業	総合工事業、職別工事業、設備工事業
卸売・小売業	飲食品、一般商品、繊維・衣料品等、建築資材、金属材料、機械器具等の卸売・小売り
運輸業	陸運、海運、空運、倉庫業、荷役業ほか
サービス業等	情報通信業、不動産業・物品賃貸業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、教育・学習支援業、医療・福祉、機械整備ほか

注) 四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しない場合がある。(本文中の図表も同様)